

香川明善短大 ○秋山照子

目的 香川県域における近世、近代の食構造について、慶弔記録、年中行事など現存する古記録他により調査する。

史料・調査方法 史料は慶事献立中、婚礼料理を取りあげた。婚礼は家にとっての最大の消費生活であり、最高の晴の料理であって、婚礼献立は同時代の献立構成、調理法、食品などをみる上で有効な史料である。本報では、地域・年代などを考慮した下記の4家、5史料とした。

- (A)「御婚禮御献立記、明治十三年、辰旧九月」(渡辺家)
- (B)「古登保喜(明治三拾九年)」「‘寿’上分、板場、明治三拾九丙午卯月」他(大喜多家)
- (C)「上、當日、三日目、御献立、旧四月十五日分」他(木村家)
- (D)「献立、三日目献立(大正十三年)」他(佐野家)
- (E)「献立、昭和五年十二月吉日、配膳場」(大喜多家)の各献立について分析した。

結果 (1)婚礼献立は来賓、上分、下分、次の部、面場(免場)分、小作人分、召使男女など饗応の対象の階層により、史料(A)7段階、以下、(B)6段階、(C)6段階、(D)3段階、(E)2段階に区分され、それぞれに応じて献立内容が異なる。

(2)献立内容を階層により区分する要素は、(イ)献立構成の相違(膳部の有無、汁・吸物・菜・肴の品数の多少、中酒の有無、茶菓の有無)。(ロ)料理に使用される食品数の多少。(ハ)料理、食品の種類(多少、大小、価格の高低、製法の難易他)。(ニ)膳、器の種類。(ホ)配膳方法の相違他など質的要因、量的要因の両面がみられた。